

自意識とファッションスタイル選択の関係

A19AB108 丹羽由梨香

1. はじめに

服を選ぶとき。私たちは一体どんなことを考えてそれを選んでいるのだろうか。自分の好みで？それとも、他者からの見られ方を気にしながら？このような被服選択における意識をはじめとした自分の内面や外面における意識を「自己意識」と呼ぶ。この「自己意識」は我々の被服選択に大きな影響を及ぼしているということが、諸井ら²⁾による『被服イメージ判断に及ぼす被服志向性の影響』などの先行研究にて明らかになっている。しかし、本来の被服選択ではいつも異なる目的が存在する。

本研究では、自己意識の違いが異なる目的での被服選択行動に与える影響について調査を行った。そして、選択行動時の被服の具体例としてタイプの異なるファッションスタイルイメージを用いた。それによって、より詳細に我々の被服選択傾向を明らかにすることを目的とする。

2. 調査方法

2-1. 調査対象者と調査時期

調査は、女子大学生（1～4年生）110名を対象にして、2022年12月上旬から12月中旬にかけて行った。

2-2. 調査方法

調査方法は、Google フォームを用いたアンケート調査とした。

2-3. 調査項目

(1) 公的自己意識尺度¹⁾ (12項目)、(2) 私的自己意識尺度¹⁾ (11項目)、(3) 好みのファッションスタイルイメージについて (5項目)、(4) 目的（シチュエーション）別の被服選択について (30項目) の計4つの観点から質問を構成した。主に、「あてはまる・ややあてはまる・どちらでもない・ややあてはまらない・あてはまらない」などの5段階評価の回答形式とした。(1)の質問項目の具体例をTable 1の1-1から1-12、(2)の具体例を1-13から1-23に示す。

2-4. 分析方法

単純集計の他に、因子分析とクラスタ分析を、エクセル統計およびSPSSを用いて統計処理を行った。

2-5. 調査における仮説

調査をするにあたって、公私自己意識と私的自己意識に関する仮説①～⑤を5つ設定した。

公的自己意識が高い人

- ①目的（シチュエーション）に左右されるスタイルを選択をする
- ②TPOに配慮したスタイルを選択する
- ③人の目が多い場所であるほど比較的個性的ではないデザインのスタイルを選択する

私的自己意識が高い人

- ④目的（シチュエーション）に左右されないスタイルを選択する
- ⑤実用性の高いスタイルを多く選択する

3. 結果および考察

3-1. 「公私自己意識尺度」の単純集計

調査の結果の平均値・標準偏差をTable 1に示す。多数の項目で平均値3.5以上を示し、調査対象者の多くが自分の内面または外面における意識をある程度持っているということが確認できた。

3-2. 自己意識尺度の因子分析

公私自己意識尺度（計23項目）のアンケート結果をもとに因子分析（主因子法・バリマックス回転）を行った。その結果、固有値1.0以上の6つの因子を抽出した。

因子負荷量と各因子の特徴から命名した各因子名をTable 2に示す。

Table 1 「公私自己意識尺度」項目の平均値・標準偏差

番号	質問項目	平均値	標準偏差
1-1	自分が他人にどう思われているのか気になる	4.35	0.84
1-2	世間体など気にならない	3.48	1.11
1-3	人に会う時、どんなふうにするまえば良いのか気になる	3.85	1.14
1-4	自分の発言を他人がどう受け取ったか気になる	4.25	1.02
1-5	人に見られていると、つかっこうをつけてしまう	3.41	1.04
1-6	自分の容姿を気にするほうだ	4.53	0.73
1-7	自分についてのうわさに関心がある	3.70	1.25
1-8	人前で何かする時、自分のしぐさや姿が気になる	4.07	1.01
1-9	他人からの評価を考えながら行動する	3.61	1.20
1-10	初対面の人に、自分の印象を悪くしないように気づかう	4.42	0.91
1-11	人の目に映る自分の姿に心を配る	3.97	1.05
1-12	服を選ぶとき、人からそれがどうみられるかを気にする	3.60	1.28
1-13	自分がどんな人間か自覚しようとしてる	3.67	1.11
1-14	その時々々の気持ちの動きを自分自身でつかんでいたい	3.56	1.18
1-15	自分自身の内面のことには、あまり関心が無い	3.86	1.21
1-16	自分が本当は何をしたいのか考えながら行動する	3.53	1.22
1-17	ふと、一歩離れた所から自分をながめてみることもある	3.44	1.29
1-18	自分を反省してることが多い	3.88	1.28
1-19	他人を見るように自分をながめてみることもある	3.19	1.25
1-20	しばしば、自分の心を理解しようとする	3.74	1.11
1-21	つねに、自分自身を見つめる目を忘れないようにしている	3.25	1.00
1-22	気分が変わると自分自身でそれを敏感に感じ取るほうだ	4.17	0.94
1-23	服を選ぶとき、それを着て自分の心が満足するかどうか何よりも大切だ	4.42	0.80

Table 2 因子負荷量と各因子名

項目	第1因子 自分の心を意識する因子	第2因子 自分の容姿を気にする因子	第3因子 自分の他者からの評価を意識する因子	第4因子 自分の行動を意識する因子	第5因子 自己着装を意識する因子	第6因子 自分を客観視して見る因子	
1-20	・しばしば、自分の心を理解しようとする	0.732	0.065	0.169	0.033	-0.043	0.124
1-14	・その時々々の気持ちの動きを自分自身でつかんでいたい	0.726	0.093	-0.002	0.163	-0.009	0.045
1-13	・自分がどんな人間か自覚しようとしてる	0.683	0.273	-0.144	0.189	0.101	-0.070
1-16	・自分が本当は何をしたいのか考えながら行動する	0.677	-0.245	0.231	0.181	-0.171	0.038
1-21	・つねに、自分自身を見つめる目を忘れないようにしている	0.569	0.089	-0.071	0.142	0.158	0.006
1-19	・他人を見るように自分をながめてみることもある	0.427	0.128	0.039	0.348	-0.117	0.247
1-22	・気分が変わると自分自身でそれを敏感に感じ取るほうだ	0.426	-0.075	0.140	-0.010	-0.191	0.167
1-15	・自分自身の内面のことには、あまり関心が無い	0.366	-0.245	0.231	0.181	-0.171	0.038
1-11	・人の目に映る自分の姿に心を配る	0.020	0.714	0.156	0.226	0.021	0.127
1-12	・服を選ぶ時、人からそれがどうみられるかを気にする	0.133	0.496	0.190	0.034	0.202	-0.028
1-5	・人に見られていると、つかっこうをつけてしまう	0.073	0.465	0.294	-0.054	0.002	-0.094
1-10	・初対面の人に、自分の印象を悪くしないように気づかう	0.046	0.459	0.202	0.182	-0.055	0.127
1-9	・他人からの評価を考えながら行動する	0.360	0.441	0.366	0.257	0.244	-0.008
1-7	・自分についてのうわさに関心がある	0.105	0.237	0.727	0.043	0.097	-0.174
1-1	・自分が他人にどう思われているのか気になる	-0.083	0.162	0.662	0.183	-0.023	0.051
1-8	・人前で何かする時、自分のしぐさや姿が気になる	0.100	0.158	0.510	0.335	0.062	0.077
1-2	・世間体など気にならない	-0.008	0.300	0.460	-0.135	0.035	0.174
1-18	・自分を反省してることが多い	0.393	0.145	0.193	0.506	-0.024	0.044
1-4	・自分の発言を他人がどう受け取ったか気になる	0.119	0.321	0.318	0.409	0.211	0.084
1-6	・自分の容姿を気にするほうだ	-0.040	0.407	-0.002	0.031	-0.553	0.103
1-23	・服を選ぶ時、それを着て自分の心が満足するかどうか何よりも大切だ	-0.015	-0.186	-0.065	-0.014	-0.520	-0.060
1-3	・人に会う時、どんなふうにするまえば良いのか気になる	0.018	0.223	0.293	0.291	0.343	0.240
1-17	・ふと、一歩離れた所から自分をながめてみることもある	0.283	0.079	0.003	0.099	0.052	0.754
固有値		3.2362	2.1231	2.1152	1.1529	1.0160	0.9070
寄与率 (%)		14.07	9.23	9.20	5.01	4.42	3.94
累積寄与率 (%)		14.07	23.30	32.50	37.51	41.93	45.87

Table 3 各クラスターの因子得点・標準偏差

	第1因子 自分の心を意識する	第2因子 自分の容姿を気にする	第3因子 自分の他者からの評価を意識する	第4因子 自分の行動を意識する	第5因子 自己着装を意識する	第6因子 自分を客観視して見る	
クラスター1 心理非重視グループ(N=20)	平均値	-1.03	-0.22	0.13	0.39	-0.01	-0.31
	標準偏差	0.67	0.94	0.65	0.72	0.68	0.88
クラスター2 心理重視・評価非重視グループ(N=40)	平均値	0.47	-0.23	-0.40	0.07	-0.09	0.03
	標準偏差	0.63	0.88	0.83	0.65	0.91	0.93
クラスター3 評価・容姿重視グループ(N=39)	平均値	0.24	0.43	0.58	0.04	0.21	0.27
	標準偏差	0.61	0.55	0.44	0.44	0.66	0.51
クラスター4 心理・行動・評価・着装・客観視非重視グループ(N=8)	平均値	-0.97	-0.38	-1.10	-1.51	-0.56	-0.72
	標準偏差	1.16	0.87	0.94	0.77	0.55	0.43

3-3. 自己意識尺度のクラスター分析

6つの因子の因子得点を用いてクラスター分析(ワード法)を行った。4つのクラスターに分類し、因子得点の平均値の特徴から、Table 3に示すように各クラスターを命名した。

クラスター別にそれぞれの特徴を整理してみると、自分の内面である心理状態を重視していないクラスター1は私的自己意識の低さが目立ち、心理状態を重視しているクラスター2は私的自己意識の高さが目立った。一方、自分の外面である評価や容姿を重視しているクラスター3は公的自己意識の高さが目立ち、自分の行いやふるまい、評価や着装行動を重視していないクラスター4は公的自己意識の低さが目立つと捉えられる。これら4つの各クラスターの、「好みのファッションスタイルイメージについて」と「目的別の被服選択について」の結果から、前述の仮説を用いてまとめとして検討した。

4. 総括

公的自己意識が高い人は、目的やTPOに合わせて被服を選ぶ傾向が見られた。反対に、公的自己意識が低い人は、目的よりも好みを優先して被服を選ぶ傾向が見られた。ただ、公的自己意識の高い人が、人の目の多いところで个性的でないデザインを選択するという傾向は今回の研究では確認できなかった。

私的自己意識が高い人は、低い人と比べて目的に左右されない被服選択をする傾向が見られた。また、その選択被服はどれも実用性が高いということが確認できた。本研究で得られた情報から、自己意識の違いが異なる目的での被服選択行動に与える影響について明らかにすることができた。

5. 引用および参考文献

- 1) 東京都立大学 菅原健介:「自己意識尺度 (self-consciousness scale) 日本語版作成の試み」, 1984, 55, 184-188.
- 2) 諸井克英, 鈴木弥生, 染谷知雅, 平田幸恵:「被服イメージ判断に及ぼす被服志向性の影響」, 人文論集(静岡大学文学部社会科学 言語文化学科), 2001, 51, 1-27.
- 3) 文化学園大学 柳田佳子:「ファッションスタイルに対するファッションイメージ用語の適合性に関する一考察(第2報)一日韓若年女性の比較」, 日本感性工学会論文誌, 2017, 16, 1, 9-18.